



特集

乾きかけた

オアシス

オアシスは、その湧き水で人々を潤してくれる。その湧き水を留萌市の財政に見立てたとき、『るもい』というオアシスは、わたしたちの目にどのように映るのだろうか…

危機的な状況!? 砂漠化した財政

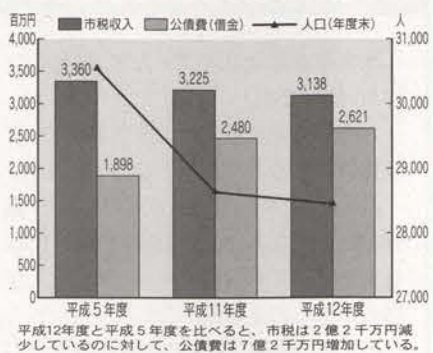
この特集を作るにあたり、わたしは同じ職場にいる同僚に、「いまの留萌市の財政を何かに例えるとしたら、なに？」と聞いてみました。その答えは、「がけつづぶち」「重症患者」「氷の世界」など、ほとんどの人が留萌市の財政に暗いイメージをもっていました。たぶん、この広報誌を読んでいる皆さんも、同じような考えなの

かもしれません。確かに留萌市の財政は、大変厳しい状況にあります。

この危機的な状況から一日でも早く抜け出すため、市が、「財政健全化計画(H12〜19)」を作り、財政を立て直しに力を注いでいることは、新聞や広報誌で目にしたことがあると思います。

では、近年、市が行った様々な財政の立て直しのための改善策は、実際どれくらいの効果があったのでしょうか。

【グラフ】市税・公債費・人口の推移



【表1】平成11年度と平成12年度の一般会計の収支状況

区分	平成11年度	平成12年度	差
歳入決算額 A	167億3,881	157億5,702	△9億8,179
歳出決算額 B	166億6,551	156億7,088	△9億9,463
歳入歳出差引額 C	7,330	8,614	1,284
実質収支額 D	4,384	6,204	1,820
単年度収支額 E	△3,578	1,821	5,399
実質単年度収支 F	△2億3,566	△1億9,182	4,384
支出の調整に使った基金 G	5億1,714	2億3,200	△2億8,514

※各数値ごとに端数処理をしているため、計算上合わない場合があります。

改善策は効果あり!? 約3億円の経費改善

早速、財政課に平成12年度の決算状況を聞いてみました。財政「上の「表1」を一見すると、前年とほとんど差がないように見えますが、実質的な収支(F)の状況を見ると、赤字額が約4千4百万円解消されています。更に、市の貯金(基金)を取り崩した額(G)が、平成11年度は約5億2千万円なのに対し、平成12年度では約2億3千万円となっています。つまり、平成12年度の収支は約2億9千万円改善されたということです。

実質的な収支は赤字 その原因はなににか

改善されたにもかかわらず、依然実質的な収支(F)が赤字となったのは、なにが原因ですか? 財政「第一に、平成4年度から9年度にかけ、市の課題解決のため次のような大規模な施設の建設・改修事業が続いたことにより、借金の返済が増大したことです。■学校(緑丘小学校、港南中学校)や市営住宅(千鳥、末広、五十嵐)

美サイクル館の建設 港湾施設の整備事業

第二に、「はーとふる」や「こさえーる」といった、新しい施設ができたため、新たな維持管理費や借金の返済が生じたことと、こうした借金の急激な増加を予想できなかったのですか? 財政「経済不況により、国と地方の税収がともに減少していることから、国は今までこれらの事業に対し負担していた部分(交付税)を停止し、地方が借金(地方債)でその部分をまかなうことになり、これも市の借金増加に拍車をかけることになりました。そして、国が今まで負担していた部分は、今後もさらに減っていくことが予想されます」

地下に眠る湧き水: 様々な滞納金が痛手に

このような状況のなかで、市の収入は変化したのでしょうか? 財政「留萌市の財源の要である市税。この市税が長引く経済不況の影響もあり、平成11年度に比べ、約9千万円も減少しています。また平成12年度には、市税が約

赤字は解消できず 打っ手はないのか

赤字をくい止めることはできなかったのですか? 財政「市として、この赤字を見越していたわけではなく、市長や助役などの給料カットをはじめ、議員や職員の期末手当のカットや各種手当を見直して、人件費を中心に経費削減を実施しました。それに加え、市民の協力を得てごみ処理手数料の有料化も実施しましたが、大きく収支を改善するまでには至りませんでした」

財政課は、このままでは『オアシスるもい』の砂漠化が、さらに進んでいくと予測しているようです。では、どうすればこの危機的な状況が好転していくのでしょうか。